

# 平成 24 年度事業報告書

東京都目黒区下目黒 4 丁目 1 番 1 号  
公益財団法人 目黒寄生虫館

## はじめに

国が進めている公益法人制度改革の移行期限が平成 25 年 11 月に迫る中、当法人も公益財団法人への移行を図るべく対応を進めてきた。公益認定等委員会からの移行認定を受けたことにより、財団法人目黒寄生虫館は解散し、新法人に移行した。平成 24 年度に実施された各事業について以下の通り報告する。

## 研究事業

当法人の研究事業は寄生虫の分類学および形態学を主とした研究活動が主体である。日本寄生虫学会をはじめ諸学会において研究報告・論文発表等を行っている。他方、長年継続している目黒区内の虫卵調査は、委託研究であると同時に、地域に貢献する活動としての側面も併せ持つものでもある。さらには、日頃の研究成果や知識を基盤として他機関や広く一般に向けて助言・指導などを行っており、もって寄生虫学の発展に寄与している。

### I. 研究活動

#### A. 論文

##### 1. 小川和夫ら

- 1) Experimental challenges of wild Manila clams with wild *Perkinsus* spp. obtained from naturally infected Manila clams.

Journal of Invertebrate Pathology, 111 (1), 50-55.

*Perkinsus* 属原虫の野生株の天然アサリに対する病原性を実験的に確認した。小型アサリには致死性があったが、大型アサリは抵抗性を示した。

- 2) Galectins in the abdominal cavity of the conger eel *Conger myriaster* participate in cellular encapsulation of parasitic nematodes by host cells.

Fish & Shellfish Immunology, 33 (4), 780-787.

アナゴの腹腔に寄生する *Camallanus* 属線虫に対する宿主の被包にレクチンの一種、ガレクチンが関与していることを明らかにした。

- 3) Seasonal occurrence and microhabitat of the hyperparasitic monogenean *Udonella fugu* on the caligid copepod *Pseudocaligus fugu* infecting the grass puffer *Takifugu niphobles* in the Seto Inland Sea, Japan. Ocean Science Journal, 47 (3), 181-187.

瀬戸内海産クサフグ体表に寄生する甲殻類 *Pseudocaligus fugu* に超寄生する単生類 *Udonella fugu* について、*P. fugu* 上の寄生部位と季節的消長を記載した。

- 4) 生食用サンマ加工食品からのアニサキス幼虫の検出。

日本水産学会誌, 78 (6), 1193-1195.

線虫 *Anisakis simplex sensu stricto* の生食用サンマへの寄生状況を記載した。サンマ筋肉にもアニサキスが寄生することを初めて報告した。

- 5) Two species of *Cardicola* (Trematoda: Aporocotylidae) found in southern bluefin tuna, *Thunnus maccoyii*, ranced in South Australia.

Fish Pathology, 48 (1), 1-4.

オーストラリアの養殖ミナマガロの住血吸虫は *Cardicola forsteri* のほかに *Cardicola orientalis* も寄生していることを初めて明らかにした。

## 2. 巖城 隆ら

- 1) Parasitology of five primates in Mahale Mountains National Park, Tanzania.

Primates, 53(4):365-375.

タンザニア・マハレ山塊国立公園の5種の霊長類(アカコロブス、アカオザル、ベルベットモンキー、キイロヒビ、チンパンジー)の糞便を採集し、寄生虫相を調査した。

- 2) 神奈川県野生鳥類にみられた寄生蠕虫類.

日本野生動物医学会誌, 17(3): 119-126.

神奈川県内で保護され死亡した野生鳥類27種39羽について寄生蠕虫相の検査を行い、うち18種25羽から蠕虫類が検出された。数種の吸虫類・線虫類が日本初報告と考えられた。

- 3) *Ogmocotyle ailuri* (Price, 1954) (Digenea: Notocotylidae) found in the Japanese Monkey, *Macaca fuscata*.

Journal of Veterinary Medical Science, 74(9): 1211-1212.

仙台市で捕獲されたニホンザルの小腸から吸虫 *Ogmocotyle ailuri* が検出された。ニホンザルでの寄生例および日本での発見は初めてであった。

- 4) ハヤブサの筋肉にみられた2種の顎口虫幼虫.

日本野生動物医学会誌, 17(4): 153-155.

熊本県内で保護されたハヤブサ2羽の筋肉から有棘顎口虫および日本顎口虫の第3期後期幼虫が検出された。ハヤブサから顎口虫幼虫が発見されたのは初めてであった。

## B. 学会発表

### 1. 小川和夫ら

- 1) オーストラリアの蓄養ミナマガロにみられた住血吸虫の同定.

平成 24 年度日本魚病学会秋季大会、下関、平成 24 年 9 月。

オーストラリアの養殖ミナマガロに寄生する 2 種の住血吸虫の同定についてポスター発表した。

- 2) Blood fluke infections of farmed Pacific bluefin tuna.

ASP Parasitic Diseases in Fish Mariculture Workshop, 平成 25 年 2 月。

オーストラリアで開催された海産養殖魚の寄生虫病に関するワークショップの招待講演者として、日本の養殖クロマグロの住血吸虫症について口頭発表した。

### 2. 巖城 隆ら

- 1) 神奈川県を主とした日本の野生哺乳類・鳥類の寄生蠕虫類の調査.

第 18 回日本野生動物医学会大会、東京、平成 24 年 8 月。

2008～2010年に日本各地で拾遺・捕獲・安楽死処置された野生哺乳類10種310頭、鳥類3種3羽の検体を検査し、寄生蠕虫相を調査した。ハクビシンの線虫 *Arthrostoma longispiculum*、ニホンテンの線虫 *Eucoleus schvalovoj* が日本初報告・新宿主報告であった。

2) 救護されたダイシャクシギから見つかった寄生吸虫 *Selfcoelum capellum*.

日本鳥学会 2012 年度大会、東京、平成 24 年 9 月。

北海道で救護され死亡したダイシャクシギの肩関節・腹腔内から吸虫が検出され、*Selfcoelum capellum* と同定された。この属の吸虫が日本で報告されたのは初めてであった。

3) 東京都におけるイヌとネコの東洋眼虫寄生状況と中間宿主メマトイ類の調査。

第 17 回アジア獣医師会連合大会、台湾、平成 25 年 1 月。

東京都内のイヌとネコの東洋眼虫の寄生状況を調査した結果、イヌ 4.0%、ネコ 1.3%に寄生がみられ、本寄生虫の定着が確認された。また、寄生犬が収容された公園でのメマトイ類の採集調査により、これらの昆虫の媒介が推察された。

## C. 研究助成

### 1. 小川和夫

(独)日本学術振興会 科学研究費補助金 平成22～24年度 基盤研究(B)

「クロマグロ住血吸虫症の対策に向けての基礎研究」研究代表者

クロマグロ養殖が盛んになるにつれて顕在化してきた住血吸虫症の対策確立を目的として、研究の最終年度に当たり、プラジクアンテル製剤(PZQ)の経口投与による心臓寄生の *Cardicola opisthorchis* に対する最少有効濃度を求めた。また、走査型電子顕微鏡を用いて、in vitroにおける PZQの *Cardicola opisthorchis* および *Cardicola orientalis* に与える影響を記載した。

### 2. 巖城 隆

(独)日本学術振興会 科学研究費補助金 平成22～24年度 基盤研究(C)

「日本の野生鳥類の寄生虫相に関する調査と寄生虫相データベースの構築」研究代表者

日本産野生鳥類の寄生虫相の調査のため、鳥類寄生虫を広く採集し形態学的観察により同定を行うと共に、寄生虫の塩基配列データを解析し遺伝子データベースに登録する。さらに、従来の日本産鳥類の寄生虫相データを整理・統合し、データベースを作成し公開する。

## II. 委託研究

「砂場における寄生虫卵調査」

目黒区教育委員会の委託により行われている調査で、平成 24 年度は目黒区立の 2 小学校・2 中学校・1 幼稚園が対象であった。平成 24 年 8 月 2 日(うち 1 件は 8 月 7 日に実施)と平成 25 年 2 月 20 日の 2 回、各施設の砂場とその付近から砂を採取し、寄生虫卵の有無を調査した。その結果、1 施設の砂場から猫回虫卵と思われるものが検出された。1 施設では砂場以外の構内で猫の糞便が見つかった

が、虫卵は検出されなかった。児童が日常利用する場所に猫の糞便が見つかったため、砂場を含めた施設構内の糞便による汚染には十分な注意が必要と思われる。調査時にシートのかけられていない砂場やシートが破損していた事例もみられたことから、糞便により汚染される可能性を含めて注意を喚起した。運動・作業後の手洗いの励行などが必要であることを報告書にまとめ、教育委員会へ提出した。  
(小川和夫、巖城隆)

### III. その他の研究活動

#### A. 寄生虫に関する助言および指導

博物館来館者による質問、電話およびFAXで受けた質問等はそれぞれ78件、51件および2件であった。一般から依頼された寄生虫同定・異物鑑定は26件であった。そのほか、大学の卒業論文(1大学2論文)の作成に関して指導・助言を行なった。

#### B. 標本・文献の収集・貸出

##### 1. 標本

収集数 寄生虫 94種(未同定種を含む) 215点

外部からの標本寄贈 8件 18点

外部への研究用標本貸出 5件 42点

##### 2. 文献など

当法人では図書・逐次刊行物の購入ないし寄贈によって、さらなる資料の充実を図っている。その他にも、国内外の研究者・諸機関から多数の論文別刷の寄贈を受けており、データベース化を進めている。これら文献等の資料貸出は10件10点であった。

##### 1) 図書

当年度中に65冊の図書を新たに登録した。これらは購入もしくは研究者や他の博物館からの寄贈によるものである。当年度中に所蔵した図書の一例を以下に示す。

日本鳥類目録 改訂第7版 (日本鳥学会, 2012年)

日本産魚類検索 全種の同定 第3版 (東海大学出版会, 2013年)

ズーノーシスハンドブック (メディカルサイエンス社, 2012年)

Parasitic Flatworms: Molecular Biology, Biochemistry, Immunology and Physiology

(CAB International, 2005)

Parasitic Helminths: Targets, Screens, Drugs and Vaccines (Wiley-Blackwell, 2012)

The Microsporidia and Microsporidiosis (ASM Press, 1999)

Fish diseases Vol. 1, Vol. 2 (Science Publishers, 2008)

Essentials of Cestodology Vol. 13 - Part 1, Part 2(Nauka, Moscow; 2003)

Essentials of Cestodology Vol. 14 (Nauka, Moscow; 2006)

ほか

## 2) 逐次刊行物

学術雑誌のオンライン化が目覚ましい昨今、法人経営上の観点からも、印刷媒体の購読の可否について、利用度等も鑑みて個別に検討を行うこととなった。その結果、「環動昆」「原生動物学雑誌」「Helminthological Abstracts」「Systematic Parasitology」「Journal of Helminthology」など複数誌について、当年度からの購読を取りやめた。他方、各機関からの寄贈は引き続き受け付けて資料交換に応じた他、個人より「野生動物医学会雑誌」等数種の寄贈を受けた。

# 啓発事業(博物館)

当法人の建物は1階と2階に常設展示室を設けており、設立以来、一貫して無料開館を継続している。運用収入の低下が続く中、来館者による寄付金は年間300万円を超え、法人運営の貴重な一助となっている。年1回のペースで開催される特別展示はリピーターの獲得にもつながっており、その他解説会や資料頒布といった様々な啓発活動を通じて、広く一般に向けて寄生虫学に関する科学知識の普及を図っている。さらに、博物館法第2条に定義される登録博物館という立場と責任から、博物館学芸員課程を受講する実習生の受入れにも積極的である。

## I. 展示活動

### 1. 開館日数および来館者数

平成24年度の開館日数は307日であった。来館者総数は約56,220名であり、1日あたり約183名の換算となる。昨年度報告より7000人程度の減少となるが、実際には平日でも来館者は多く、繁忙期は館内の安全管理のための巡視が欠かせない。来館者数の減少は当年度中に複数回の実測調査を行い、来館者カウンターの概算精度を高めたことに起因すると考えられる。

全来館者のうち、事前申込みを受けた見学者数は1,693名にのぼった。ただし、予約をせずに来館する場合もあるため、団体見学の実態は必ずしも明確ではない。来館者全体と比較すると3%程度にあたり、その比率は例年横ばいの状態が続いている。団体・グループ見学の一例を以下に示す。

目黒区立月光原小学校 朋優学園高等学校 福岡市立福岡女子高等学校 町田調理師専門学校  
日本医学柔整鍼灸専門学校 立正大学地球環境科学部 Wageningen University 株式会社イクスピアリ  
独立行政法人国際協力機構 公益社団法人沖縄県看護協会 ほか

### 2. 特別展示

平成24年4月28日から9月23日まで「寄生虫が松を枯らす - 植物の寄生虫」と題して、松枯れが起こる仕組みを模式図や画像とともにパネルで解説した。例年はパネル解説に並びプレパラート標本等を展示しているが、本年は監修者である富樫一巳氏(東京大学)から虫体の提供を受けられたことから生体展示を実施した。松枯れの原因となるマツノザイセンチュウは実体顕微鏡による観察を、宿主となるマツノマダラカミキリは幼虫と成虫をそれぞれアクリルケース内で飼育し展示した。

また、その他の植物寄生性の線虫については岩堀英晶氏(九州沖縄農業研究センター)に協力を仰ぎ、配布用リーフレットを作成した。生きた寄生虫が見られるという呼び込みで多数の来館者に興味をもたれ、リーフレットも 1500 枚以上が配布された。

### 3. 展示室パネルおよび液浸標本の整備

展示室2階の解説パネルは20年弱にわたり標本瓶の露出展示を行ってきた。しかし来館者が増えるにつれて落下事故等のリスクも増し、さらに先の震災を受けてその対策は喫緊のものとなっていた。来館者の安全対策と耐震対策のため、常設展示パネル25枚について全面的にリニューアルを行った。更新にあたっては現状の焼き直しには留まらず、より新しくかつ詳細な情報が紹介できるよう努めた。

平成24年7月29日の閉館後、対象となるパネルを撤去し、液浸標本を全て取り外した。翌30日の月曜休館日を利用して躯体を取り付け、それぞれの標本を再配置した。リニューアル後は解説スペース全体を大きな躯体で囲み、標本瓶をアクリル板で覆われた躯体の内側に配した。瓶の上にはLED照明をあてたことで標本が映え、小さくて見づらかった標本も観察しやすくなった。また、ミンクジラに寄生したアニサキスとツチクジラに寄生したクラシカウダの標本は幅15cmのアクリルケースに詰められたもので、今回新たに製作・設置されたものである。

室内を「人体寄生虫」「人獣共通寄生虫(線虫・吸虫・条虫)」と各ブロックにわけたほか、1階陳列棚の液浸標本を含めて全面的に標本を入れ替え、来館者がそれぞれの寄生虫をより系統立てて理解できるよう配慮した。また、かつては印象の強い展示に来館者が集中するといった動線上の問題が一部にみられたが、それらを各ブロックに分散して配置することで、繁忙期における混雑解消にもつながった。

更新にあたっては、運用収入が落ち込む中で予算の工面が容易でなかったことは言うまでもない。当年度中のリニューアルが行えたことは、先の内容で文部科学省に申請を行い、当法人の所有する基本財産(宅地)の売却処分承認が得られたことによる。なお、実施にあたっては以下の団体・個人から画像の掲載許可・転載許可をいただいた。

安里龍二・岡村一郎・尾辻義人・影井昇・加納六郎・唐沢病院・岐阜市民病院・誠文堂新光社・高篠弘・南江堂・南山堂・目黒区役所都市整備部みどり公園課・宮崎一郎(敬称略)

## II. 教育普及活動

### 1. 解説会・講演会

#### 1) 展示解説会

2階展示室のリニューアルに伴い、常務理事の小川和夫館長による解説会を開催した。平成24年8月24日、「展示がもっと面白くなる！“閉館後の展示室で”館長と観る寄生虫の世界」と題し、表題の通り閉館後に残った希望者のみ、参加費(500円)を徴収して行われた。実施の背景には、狭い館内でのガイドツアーには面積上の制約があり、少人数での見学スタイルを導入せざるをえなかったことが挙げられる。館内掲示及び公式サイト上で限定して参加者を募り、14名が聴講した。解説時間は1時間半を超え、充実した内容となった。

基本財産の運用収入が落ち込む中、有料イベントが増えれば法人にとっては増収につながる。しかし、限られた人材の中で研究活動との兼ね合いもあるため、決して頻繁にできるものではない。当年度は1度のみの開催となったが、対象年齢層や開催頻度、参加費の妥当性等については今後の検討課題となった。

## 2) 講演会等

職員による講演等の依頼があった場合には、それらを随時受け入れる。講演等の招聘は法人事業の紹介の場を館外へと拡充し、寄生虫学に対する理解を深めることでさらに利用者の裾野を広げるものである。当年度中に実施した主な会を以下に挙げる。

平成25年1月16日 明治大学リバティアーカデミー「ア・ミュージアム—知の玄関への招待—」(小川和夫)

平成25年1月24日 埼玉県農林総合研究センター水産研究所「魚類の寄生虫疾病について」(小川和夫)

平成25年2月27日 横浜市保土ヶ谷福祉保健センター「魚類寄生虫研修会」 (小川和夫・巖城隆)

## 2. 実習生受入

博物館法施行規則(文部科学省令)第2条に基づき、博物館学芸員資格取得のための実習生の受入れを例年受け入れている。実習の目的は日常的な業務に携わることで博物館運営への理解を深めることにある。内容は館内清掃や来館者対応に始まり、資料整備や展示物の製作・加工など多岐に渡る。文献の整備等が短期間かつ精力的に行えたことは、彼らのマンパワーに依るところも大きい。常設展示のイラストを担当したり、展示室のリニューアル工事に協力したりと、日々の業務の中で常にフレキシブルな対応が求められる。座学では得られない実体験に目を輝かせる学生が多い一方で、近年では珍しさや立地条件で安易に実習館を選ぶ者も増えてきたのも事実である。事前面接は不可欠であり、面接時での辞退者や受入を断った学生も数名いる。平成24年度は以下の11大学、計15名が参加した。

法政大学 北里大学 東京海洋大学 立正大学 都留文科大学 麻布大学

日本獣医生命科学大学 中央大学 東京農業大学 明治学院大学 帝京平成大学 (受入順)

また、当年度は水産実習のため東京大学から学生1名を受け入れ、解剖や標本製作を行った。

## 3. 教育用標本の頒布

昭和50年代に日本寄生虫学会からの委託により発足した「教育標本サプライセンター」を前身として、医学系の大学や教育機関等を対象に寄生虫標本を販売している。平成24年度は30機関から依頼を受け、寄生虫卵液浸標本94本、スライド標本(塗抹染色・組織薄切等)394枚を販売した。

## Ⅲ. 標本・図書・別刷の整備、電子情報化

### 1. 標本の整備と電子情報化

当法人の公式サイト上にはデータベース「目黒寄生虫館所蔵タイプ標本一覧」を随時更新している。平成25年3月時点における収録数は1,446種であった。公開当初の1,043種と比べ403種が追加されたことになる。また、蠕虫類のリストの更新も随時行っており、当年度の収録数は「日本産哺乳類の寄生蠕虫類リスト」4,007件、「鳥類の寄生蠕虫類リスト」1,858件である。

## 2. 図書・別刷等の整備と電子情報化

図書の寄贈や購入により地下書庫に保管された蔵書数は微増となり、平成 25 年 3 月末時点において 4,910 冊の目録が整備された。学術雑誌 306 種については資料管理のため蔵書の整理を行うとともに、11,805 冊を実際に確認した。文献室に保管する論文の別刷についてもデータベース化を目指している。

## 啓発事業(出版・広報)

刊行物は事業活動報告を兼ねて関連研究機関や博物館に送付しており、希望する来館者には有償で頒布している。当法人の事業活動に対してはマスコミからの取材申し込みも多いが、事前に内容を吟味した上で対処している。

### 1. むしはむしでもはらのむし通信(広報誌)

年 1 回の頻度で刊行している広報誌で、平成 24 年 12 月に第 192 号を刊行した。巻頭読み物にはマーク・フリーマン氏(マラヤ大学)から寄稿を受け小川館長が翻訳した「超寄生虫(ハイパーパラサイト)～寄生虫に寄生する生物の話～」を掲載したほか、年度中に更新した常設展示の解説および特別展「寄生虫が松を枯らすー植物の寄生虫」の実施記録等を掲載した。なお、本号の表紙に使用したパタゴニアエゾイバラガニの画像は(独)水産総合研究センター開発調査センターより提供を受けた。

例年はカラー 20 頁だったのに対し、本号より経費削減のため 16 ページに減らしての発行となったが、文章量は減らさずボリュームの維持に努めた。発行部数 600 部に対し、約 120 部を関係機関・博物館等に配布して他館との資料交換に応じている。

### 2. 目黒寄生虫館ガイドブックおよび寄生虫学関連書籍の頒布

当年度も展示ガイドブック和文版/英文版(カラー 16 頁)の有償頒布を行った。2 階常設展示室のリニューアルに伴い、ガイドブックの内容も大幅に更新し、価格も 420 円に改定された。さらに、館内で寄生虫学関連書籍の閲覧と頒布が可能となっていることは、いわば啓蒙活動の一環としても位置づけられるものである。「寄生虫のふしぎ(技術評論社)」「寄生虫の奇妙な世界(誠文堂新光社)」に代表される当法人著作もしくは監修の書籍など十数種類を展開している。

### 3. ウェブサイト

公式サイト(<http://www.kiseichu.org/>)では目黒寄生虫館からの情報発信、すなわち事業内容や開館案内等を紹介するページを設けている。また、法人運営の観点からもインターネットを用いたディスクロージャーが求められていることから、寄附行為や役員名簿の公表により財団の情報公開に努めている。

マイクロソフト社のサービス内容の変更(ドメイン移行)に伴い、平成 24 年 4 月 23 日をもってホームページの全面リニューアルを行った。トップページにはフラッシュを配し、館内の様子を複数枚の画像を組み合わせて表現している。さらに同日より、PDF 化した「日本における寄生虫学の研究」和文版 1～5 巻、英文版 Vol.1～6 の全論文の無償公開を開始した。博物館紹介に留まらず、研究活動の成果の場としてサイトを活用するための土台となるもので、今後のサイト運営において大きな意義をもつものである。

訪問者数はサービスの切り替えを挟んだために概数となるが、トップページに限っては約 140,000 アクセスであった。1日換算で400人弱となる。実際には館内案内やPDF公開などの各ページへダイレクトにリンクを貼られていることも多く、さらに広く一般の目に触れられるところとなっている。SNS上には日々多くのツイートがなされ、ブログや所謂「まとめサイト」へのアップロードも枚挙に暇がない。公式サイトはもちろん、第三者による情報提供や感想の発言によって博物館の認知度は年を追うごとに高められている。さらに、これらの発言は来館者による運営評価という側面を併せ持つものでもある。数多ある来館者の感想を洗い出して運営改善につなげるためにも、リンク元や博物館を取り上げるサイトの定期的なチェック体制が求められる。

#### 4. 取材対応・画像提供

毎年様々なマスコミから取材や誌面掲載の依頼を受け、平成24年度も61件の申請があった。申請数は前年と比べ10件増加している。理由として、当年度はマダニが媒介する重症熱性血小板減少症候群のニュースがたびたび取り上げられたことが挙げられる。そのような学術的意義の大きいものや、博物館の周知に適切と判断される媒体41件について取材対応または画像提供を行った。内訳はテレビ10件、新聞2件、書籍4件、雑誌・冊子類13件、ウェブサイト9件、その他3件であった。

さらに、上記とは別に劇団・青年団から依頼を受け、25年度4月に予定されている舞台「この生は受け入れがたし」について、資料提供や内容指導面で全面的に協力を行った。平田オリザ氏によるこの戯曲は亀谷了初代館長の著書「寄生虫館物語」に強いインスピレーションを受けて製作されたものである。17年ぶりの再演となった今回は、小川館長によるトークイベントやミュージアムグッズの催事販売も予定されている。

## 収益事業

### 1. オリジナルミュージアムグッズの委託販売

展示室2階のミュージアムショップは、いわば博物館における展示機能の延長空間と位置づけられる。当法人では十年来、来館者のニーズに応える形でオリジナルグッズを販売してきた。創設者亀谷了が発見した単生虫をデザインしたTシャツや、ロゴマークのフタゴムシをモチーフにした小物など、ユニークさから来館記念に購入する見学者は多い。これらの販売収入は無料開館を続ける法人運営の中でも極めて重要な収入源となっている。さらに、通信販売を通じて、遠方で来館が難しい利用者への販売も可能となった。博物館全体の知名度の向上と新たな見学者の獲得につながるものとして運営上におけるメリットも大きい。

今年度は新たにシャープペンシルを製作した。求めやすい価格帯であり、実用性も高いアイテムとして好評である。また、第82回日本寄生虫学会大会の開催に先立ち、学会事務局よりグッズ製作の打診を受けた。そこで、ミヤイリガイ発見100周年を冠したTシャツとストラップをデザインし、学会事務局に卸した。目黒寄生虫館・日本寄生虫学会・宮入慶之助記念館のコラボレーションとして3種類のロゴをあしらひ、ストラップには東京医科歯科大学国際環境寄生虫学分野より提供されたミヤイリガイを樹脂封入した。学会期間中は参加者に好評で当初見込みを倍以上上回る売れ行きとなった。なお在庫は25年度に引き続きミュージアムショップにて販売する。

### 2. 博物館に設置する自動販売機収入について、雑収入を計上した。

## 庶務事項

### I. 理事会・評議員会等の開催

#### 1) 平成 24 年度第 1 回定例理事会開催

開催日時 平成 24 年 5 月 27 日(日) 午後 1 時～2 時

開催場所 目黒寄生虫館 6 階 生涯学習室

理事数 10 名

出席理事数 10 名 (欠席なし)

下案を審議し、可決承認した。

第 1 号議案 平成 23 年度事業報告書案ならびに平成 23 年度収支決算書案の件

第 2 号議案 新法人移行のための評議員選定委員会運営規程案の件

第 3 号議案 賛助会員規程案の件

第 4 号議案 評議員の任期満了に伴う改選の件

第 5 号議案 理事長・常務理事の任期満了に伴う改選の件

#### 2) 平成 23 年度第 1 回定例評議員会開催

開催日時 平成 24 年 5 月 27 日(日) 午後 2 時 30 分～3 時 30 分

開催場所 目黒寄生虫館 6 階 生涯学習室

評議員数 10 名

出席評議員数 8 名 (欠席 2 名)

下案を審議し、可決承認した。

第 1 号議案 平成 23 年度事業報告書案ならびに平成 23 年度収支決算書案の件

第 2 号議案 新法人移行のための評議員選定委員会運営規程案の件

第 3 号議案 賛助会員規程案の件

第 4 号議案 理事の任期満了に伴う改選の件

第 5 号議案 監事の任期満了に伴う改選の件

#### 3) 平成 24 年度第 1 回臨時理事会開催

開催日時 平成 24 年 7 月 22 日(日) 午後 1 時～2 時

開催場所 目黒寄生虫館 6 階 生涯学習室

理事数 8 名

出席理事数 8 名 (欠席なし)

下案を審議し、可決承認した。

第 1 号議案 評議員選定委員の選出の件

第 2 号議案 財団法人目黒寄生虫館会計処理規程の改正案の件

第 3 号議案 新会計基準による平成 24 年度収支予算書案の件

4) 平成 23 年度第 1 回臨時評議員会開催

開催日時 平成 24 年 7 月 22 日(日) 午後 2 時 30 分～3 時 30 分

開催場所 目黒寄生虫館 6 階 生涯学習室

評議員数 8 名

出席評議員数 8 名 (欠席なし)

下案を審議し、可決承認した。

第 1 号議案 評議員選定委員の選出の件

第 2 号議案 財団法人目黒寄生虫館会計処理規程の改正案の件

第 3 号議案 新会計基準による平成 24 年度収支予算書案の件

5) 財団法人目黒寄生虫館 最初の評議員選定委員会開催

開催日時 平成 24 年 7 月 28 日(土) 午後 1 時～2 時 30 分

開催場所 目黒機寄生虫館 6 階 生涯学習室

出席委員 5 名 (欠席なし)

下案を審議し、可決承認した。

第 1 号議案 議長選出について

第 2 号議案 評議員の選任について

6) 平成 24 年度第 2 回臨時理事会開催

開催日時 平成 24 年 9 月 22 日(土) 午後 1 時～2 時 30 分

開催場所 目黒寄生虫館 6 階 生涯学習室

理事数 8 名

出席理事数 8 名 (欠席なし)

下案を審議し、可決承認した。

第 1 号議案 平成 23 年度収支決算書の修正の承認について

第 2 号議案 新法人における最初の評議員の選任(停止条件付)の報告について

第 3 号議案 公益財団法人目黒寄生虫館定款変更案(停止条件付)の承認について

第 4 号議案 公益財団法人目黒寄生虫館各種規程案(停止条件付)の承認について

第 5 号議案 平成 25 年度事業計画書案および収支予算書案(停止条件付)の承認について

第 6 号議案 移行申請の確認ならびに申請時における細微な変更点の理事長一任の承認について

7) 平成 24 年度第 2 回臨時評議員会開催

開催日時 平成 24 年 9 月 22 日(土) 午後 3 時～4 時 30 分

開催場所 目黒寄生虫館 6 階 生涯学習室

評議員数 8 名

出席評議員数 8 名 (欠席なし)

下案を審議し、可決承認した。

- 第1号議案 平成23年度収支決算書の修正の承認について
- 第2号議案 新法人における最初の評議員の選任(停止条件付)の報告について
- 第3号議案 公益財団法人目黒寄生虫館定款変更案(停止条件付)の承認について
- 第4号議案 公益財団法人目黒寄生虫館各種規程案(停止条件付)の承認について
- 第5号議案 平成25年度事業計画書案および収支予算書案(停止条件付)の承認について
- 第6号議案 移行申請の確認ならびに申請時における細微な変更点の理事長一任の承認について

8) 平成24年度第2回定例理事会開催

開催日時 平成25年3月16日(土) 午後1時～2時30分

開催場所 目黒寄生虫館6階 生涯学習室

理事数 8名

出席理事数 8名 (欠席なし)

下案を審議し、可決承認した。

- 第1号議案 平成24年度第2次補正収支予算書案の承認の件
- 第2号議案 平成25年度収支予算書案の修正の承認の件
- 第3号議案 「公益財団法人目黒寄生虫館定款」修正の承認の件
- 第4号議案 新法人下における各種細則の修正の承認の件
- 第5号議案 法人移行に基づく公印の改刻の承認の件

9) 平成24年度第2回定例評議員会開催

開催日時 平成25年3月16日(土) 午後3時～4時30分

開催場所 目黒寄生虫館6階 生涯学習室

評議員数 8名

出席評議員数 8名 (欠席なし)

下案を審議し、可決承認した。

- 第1号議案 平成24年度第2次補正収支予算書案の承認の件
- 第2号議案 平成25年度収支予算書案の修正の承認の件
- 第3号議案 「公益財団法人目黒寄生虫館定款」修正の承認の件
- 第4号議案 新法人下における各種細則の修正の承認の件
- 第5号議案 法人移行に基づく公印の改刻の承認の件

## II. 省庁および自治体等への届出事項、他

平成24年

4月1日 平成23年度「国と特に密接な関係がある特例民法法人への該当性について」報告書

総務省・文部科学省

5月28日 平成23年度事業報告書および収支決算書届

文部科学省

7月10日	登記事項変更の届出(理事、監事の変更)	文部科学省
7月24日	平成24年度収支予算書の変更届	文部科学省
9月22日	平成24年度収支決算書の修正届	文部科学省
9月22日	公益移行認定申請書	公益認定等委員会

平成25年

1月23日	平成24年度特例民法法人概況調査票届	文部科学省
3月5日	平成24年度「砂場の寄生虫卵調査」成績報告書	目黒区教育委員会
2月20日	休日労働・時間外労働に関する協定書	品川労働基準監督署
3月17日	平成24年度収支予算書の変更届(第2次)	文部科学省
	その他、各種調査書類等への回答	文部科学省等

### Ⅲ. 省庁からの承認・認可、他

平成24年

11月16日	公益財団法人認定に係る答申書	公益認定等委員会
--------	----------------	----------

平成25年

3月19日	公益財団法人の認定書	内閣総理大臣
-------	------------	--------

### Ⅳ. 人事

平成24年7月20日 荒木潤研究室長(常勤理事) 定年退職